2026年11月13日

各　位

会 社 名：株 式 会 社 レ ス タ ー
（コード：3156　東証プライム市場）
代表者名：代表取締役　社長ＣＯＯ　林　眞一
問合せ先：執 行 役 員　　石 田 有 都 己
（TEL：03－3458－4618）

2027年３月期通期連結業績予想の修正（上方修正）並びに配当予想の修正（増配）に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、本日公表いたしました「2027年３月期 第２四半期決算短信」における第２四半期の連結業績を踏まえ、2026年８月７日に公表した2027年３月期通期連結業績予想を上方修正するとともに、配当予想の修正（増配）を行うことについて、下記のとおり決議いたしましたのでお知らせいたします。

１．業績予想の修正（上方修正）について

（１）2027年３月期　通期連結業績予想数値の修正（2026年４月１日～2027年３月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（Ａ）（2026年８月７日発表）	百万円 750,000	百万円 26,500	百万円 21,000	百万円 13,500	円　銭 480.12
今回修正予想（Ｂ）	780,000	31,500	25,500	15,000	533.47
増減額（Ｂ－Ａ）	30,000	5,000	4,500	1,500	－
増減率（％）	4.0%	18.9%	21.4%	11.1%	－
（ご参考）前期実績（2026年３月期）	630,905	16,771	13,794	7,714	274.36

（２）修正の理由

当第２四半期連結累計期間におきましては、第１四半期から引き続き、当社が継続的に取り組んできた車載・産業機器向けが堅調に推移いたしました。加えて、生成ＡＩ用などのデータセンター向け需要の拡大に伴う一部商材の需給ひっ迫により市場価格が上昇し、業績を押し上げる要因となりました。当社はＭ＆Ａ・アライアンスを通じて継続的に拡充してきた豊富なラインカードとサプライヤーとの強固なパートナーシップによる調達力を背景に、活発な半導体市場環境においてお客様の多様な調達ニーズに的確にお応えするとともに業績の拡大に努めました。加えて円安傾向が収益を後押しする要因ともなりました。

下期におきましては、一部商材の単価上昇トレンドが落ち着きを見せつつある現状を踏まえ、上期の活発な市況環境の影響を除いた収益水準を見込んでおります。取り組みを強化している車載・産業機器領域の事業拡大も順調に進展しております。半導体需要そのものの構造的拡大は継続しており、安定的な事業

成長は下期以降も継続していくものと予想しております。半導体市況は今後の需給動向により変動することから、単価動向が再び活発化した局面においては追加的な収益機会を創出しうるものと捉えております。

今後、①欧米・インド・アジアを中心としたグローバル展開の加速、②新規M＆A・アライアンスによるラインカードのさらなる拡充、③エンジニアリング力の強化によるソリューション提供力の向上、④AI/IT投資による業務高度化・効率化を重点施策として推進してまいります。なお、エコソリューション事業（新電力）においては、地政学リスクに伴うエネルギー価格高騰リスクを下期の不確実要因として織り込んでおりますが、エネルギー市場の中長期的な成長性を踏まえた事業拡大の機会としても注視してまいります。

以上の良好な事業環境及び足元の業績動向を踏まえ、通期の売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、前回予想（2026年８月７日公表）を上回る見込みとなったため、上方修正いたします。

現在、当社グループは企業価値向上に向けた事業ポートフォリオの見直しを推進しております。その一環として、台湾において太陽光発電事業を運営する海外子会社について売却に向けた検討及び協議を進めており、これに伴う特別利益の計上が見込まれる一方で、本日公表いたしました「事業ポートフォリオ見直しに向けた取り組みに関するお知らせ」に記載のとおり、経営資源の選択と集中の観点から植物工場事業の売却・撤退を含めた抜本的な改革を進めていくこととし、これに伴う特別損失の発生を織り込んでおります。当該海外子会社の譲渡に向けた交渉状況や、植物工場事業における構造改革のスキームなど、各施策の手続きの進捗等については、今後の関係者との協議により変動する要素を残しておりますが、現段階で想定される各種スキームの蓋然性を総合的に勘案し、合理的に見込まれる特別損益の影響額を反映した結果、上記の予想としております。今後、各施策の進捗や最終契約の締結等により、業績予想に修正の必要が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

２．配当予想の修正（増配）について

（１）2027年３月期中間配当及び期末配当予想数値の修正（2026年４月１日～2027年３月31日）

	１株当たり配当金（円）		
	中間期末	期　末	合　計
前回発表予想 （2026年８月７日発表）	70円00銭	75円00銭	145円00銭
今回修正予想	70円00銭	80円00銭	150円00銭
（ご参考）前期実績 （2026年３月期）	60円00銭	68円00銭	128円00銭

（２）修正の理由

当社は、事業投資の積極的な推進や事業領域の拡大など成長領域への継続的な投資を進める一方、「連結株主資本配当率（ＤＯＥ）４％以上」の維持と「安定的且つ継続的な増配の実施」を通じた株主還元の充実を、企業価値向上に向けた重要施策の両輪と位置づけております。

このたび、上記のとおり、通期業績予想の上方修正に伴い、2027年３月期の期末配当予想を１株当たり75円から80円（前回予想比５円増配）に修正いたします。これにより、年間配当金は１株当たり145円から150円となり、ＤＯＥは4.2％となります。

当社は、成長への継続的な投資と株主の皆様への積極的な利益還元を両立させ、持続的な企業価値・株主価値の向上を実現してまいります。

※　上記の業績予想等につきましては、現時点で当社が合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は予想値と異なる可能性があります。

以　上